



この事業は森林環境譲与税を活用しています

「村松晴嵐『クロマツ林』リジエネプロジェクト」セカンドステージ始動



リジエネプロジェクト第2期として、令和6年度から、新プロジェクト「おいでよ! みんなのクロマツ広場」村松晴嵐『クロマツ林』リジエネプロジェクト『セカンドステージ』がスタートしました。このプロジェクトでは、雑木により景観が損なわれていた村松晴嵐の碑の東側に、黒松に親しめる広場を整備することを目標としています。2月15日には初回イベント(勉強会・植樹会)が開催され、54人が参加し、約300本の黒松を植樹しました。今後3年間では、継続的な植樹会の実施と計3000平方メートルの広場を整備する予定です。村発足70周年記念事業である本プロジェクトを通じて、砂防林のこれまでを学び直し、未来の砂防林を担う黒松を育てていきます。



「村松晴嵐『クロマツ林』リジエネプロジェクト」先代の想いを紡ぎ今のクロマツを守る

約100年前から先代が植えてきた黒松が、現在松枯れの被害を受けています。そこで、現代の人々が力を合わせ、砂防林を守るためのプロジェクトがスタートしました。

大正7年から先代の人々が守り続けてきた黒松が、現在松枯れの被害を受け、砂防林としての機能と景観が損なわれています。松枯れは主に2種類の虫(マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリ)により引き起こされます。マツノマダラカミキリを媒介者として、クロマツの体内にマツノザイセンチュウ(体長約1ミリメートル)が入ると、黒松の水を吸い上げる働きが阻害され枯れてしまうのです。

この現状から脱却するため、令和元年度から「村松晴嵐『クロマツ林』リジエネプロジェクト」がスタートしました。このプロジェクトは、「森林整備」と「普及啓発活動」の二つの柱を軸に活動しています。

一つ目の柱「森林整備」では、村松晴嵐の碑周辺から八間道路にかけて、除草整地・黒松の植樹・植樹した幼木への保護ネットの設置などを行い、豊かな景観と砂防林の機能回復を目指しています。二つ目の柱「普及啓発活動」では、学習会や植樹体験を実施しています。照沼小学校や地域住民の方々から参加者を募り、砂防林の歴史やその大切さ学び、植樹体験を行ってきました。このリジエネプロジェクトには、5年間で約300人の方が参加し、植樹した黒松は2100本を超えます。多くの方の手により、村松晴嵐の碑から砂防林造成の碑・八間道路にかけて、おおよその植樹が完了し、一つの節目を迎えました。



根本樹苗圃 根本 和典さん
茨城県林業種苗圃同組合

黒松の成長を共に見守っていききたい

毎年、リジエネプロジェクトで植樹する黒松の苗を提供しています。提供している苗は、松枯れに耐性のある特別な苗(抵抗性黒松)で、センチュウを投与し、耐性が確認できた苗を母樹として増殖させています。黒松は、①乾燥に強い②塩害に強い③大きく育つなどの特徴から、砂防林に適した品種です。トベラなど塩害に強い木は他にもありますが、乾燥に強く大きく育つといった3つの特徴全てを兼ね備えている木はそう多くありません。



三次 妃織さん
株式会社ヒロエンジニアリング

大人も子どもも貴重な体験ができる

「広報とうかい」を通じて、このリジエネプロジェクトを知りました。植樹という他ではなかなか体験できない点に魅力を感じ、自社の社員にも声を掛け、毎年数人の社員と共に参加しています。

参加した感想を一言で表すなら、率直に「楽しい」です。感覚的な表現にはなってしましますが、自分で植えた黒松は我が子も同然でいとおしいです。毎年足を運んでいるので、苗の成長も実感できます。自分が植えた黒松に身長を越された時は、驚きと感動が込み上げてきました。

リジエネプロジェクト第2期がスタートすると聞いた時はすごくうれしかったです。参加するたびに新しい知識や経験が得られるので、これからもこのプロジェクトに参加していきたいです。



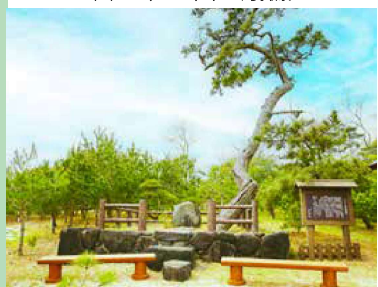
「村松晴嵐クロマツ林MAP」を手にぜひ村松海岸へ足を運んでください

今回の特集で紹介したスポット(村松晴嵐の碑・八間道路等)やリジエネプロジェクトで植樹した黒松の場所をまとめたマップ「村松晴嵐クロマツ林MAP」を村公式ホームページで公開中です。このマップを手に現地を歩き、砂防林の歴史を振り返るとともに、植樹した黒松の成長と一緒に見守っていきましょう。



▲詳細はこちら

植樹開始から5年
— 令和7(2025)年4月撮影 —



松枯れ後
— 平成31(2019)年2月撮影 —



松枯れ前
— 平成25(2013)年2月撮影 —

